



設立36年目を迎える「十和田点訳・朗読奉仕会」

十和田点訳・朗読奉仕会（宮腰優子代表、会員19人）は、昭和48年9月に、点訳、朗読の奉仕活動や視覚障害者団体が行う行事などへの協力を目的に設立され、本の点訳と朗読、その啓蒙活動などの事業を行っています。長年の地道な活動とその功績が認められボランティア功労団体として、平成20年に厚生労働大臣表彰を受賞しました。奉仕会の皆さんに、日々の活動などについてお話を伺いました。

—— 点訳・朗読奉仕会の活動内容について教えてください。
点字とは、視覚障害者が触覚で読む

字で、点（盛り上がり）によって文字や数字などを6つの点で表します。点訳活動では、県視覚障害者情報セン

ターから送付される本を、毎日2時間程度、会員が自宅ですれぞれ入力作業を行っています。入力は通常の文字キーの配列とは異なる点字用のパソコンを使用し、500ページの本を点訳するには3カ月ほどかかります。校正などの作業を経て、点字図書が県視覚障害者情報センターに配置されるのは1年後になります。

朗読活動では県視覚障害者情報センターから送付される本や広報とわだの朗読を、会員が自宅で行っています。300ページの本の朗読に2カ月ほどかかります。広報とわだは2日間で朗読を終え、カセットテープにダビングし、視覚障害者団体へ配布しています。

—— 点訳、朗読の難しいところは何か。
点訳の場合は、点字を入力する独自のルールを覚えなければならぬので、根気が必要です。

朗読の場合は、雨音や車の走行音と一緒に録音されないように気を使います。また、広報とわだに掲載されている写真がどんな内容なのかを単純明快に言い表すことです。

そのほか、点訳、朗読ともに、漢字や専門用語、難しい地名などの読み方や意味などを必ず調べることが重要です。

—— 活動で一番うれしい事は何か。
利用者から感謝の言葉を言われたときや、喜ぶ顔を見たときです。また、自分の読みたかった新刊書が、県視覚障害者情報センターから送られてきたときです。活動することが日々の生活の励みにもなります。

—— 今後の目標は何ですか。
わたしたちの活動が皆さんの目によられ、点字について考える機会となり、点訳や朗読に理解や興味を持つ人が増えてくれるとうれしいです。地域福祉のため少しでもお役に立てるよう、今後も続けていきたいです。

点訳・朗読を行うには、県視覚障害者情報センターが行う講習を受け、認定試験に合格しなければなりません。本市には認定を受けた点訳奉仕者が3人、朗読奉仕者は2人います。奉仕会では点字の体験学習や本の楽しさを知ってもらうため学校に出向き、読み聞かせなどの活動を行っています。ほか、年一回市民文化センターで「朗読のひととき」と題し発表会を行っています。



十和田点訳・朗読奉仕会の皆さん



はきはきとした朗読を心がけます



パソコンを使った点字の入力